

1. 無料化社会実験前後の交通量

国土交通省の発表によると、無料化社会実験により、松山以南の高速道路交通量は大幅に増加したが、並行する国道56号の交通量は減少した。全体では交通量が約2割増加しており、今回の無料化社会実験は、南予地域の交通流動に大きなインパクトを与えたことが見て取れる。(図表-1)

図表-1 高速道路無料化社会実験前後の日平均交通量

区間		伊予～内子五十崎			西予宇和～大洲北只		
		松山道	国道56号 ¹⁾	合計	松山道	国道56号 ²⁾	合計
平日	実験前 6/22(火)	10,000	8,500	18,500	4,500	9,600	14,100
	実験中 6/29(火)	17,200	4,300	21,500	9,500	7,000	16,500
	増減数	7,200	4,200	3,000	5,000	2,600	2,400
	増減率(%)	72.0	49.4	16.2	111.1	27.1	17.0
休日	実験前 6/20(日)	15,400	8,900	24,300	7,800	9,300	17,100
	実験中 7/4(日)	25,100	4,400	29,500	14,500	5,900	20,400
	増減数	9,700	4,500	5,200	6,700	3,400	3,300
	増減率(%)	63.0	50.6	21.4	85.9	36.6	19.3

資料:国土交通省(松山道)、国土交通省四国地方整備局(国道56号)

注1)喜多郡内子町川中、2)西予市宇和町大江

2. ナンバープレート調査

無料化社会実験による高速道路通行車両の変化を把握するため、西日本高速道路(株)の協力を得て、松山自動車道大洲料金所を通行する車両のナンバー登録地と車種を目視観測する「ナンバープレート調査」を実施した。時期は、社会実験前と社会実験中の5月と7月で、平日・休日に2日間ずつ、合計4日間行った。(図表-2)

図表-2 松山自動車道ナンバープレート調査

実施日	平日	社会実験前	2010年5月24日(月)
		社会実験中	2010年7月12日(月)
	休日	社会実験前	2010年5月30日(日)
		社会実験中	2010年7月11日(日)
実施場所	松山自動車道大洲料金所		
対象車両	緊急車両、道路パトロールカーを除く全車種		
調査方法	1回あたり40分の観測調査を1日に計8回実施 調査員の目視による観測 ナンバー登録地と普通車、軽自動車、バスなどの車種区分を記録		

(1) ナンバー調査結果(登録地別)

ナンバー登録地別の増減を見ると、愛媛ナンバーは、平日が98.4%増、休日が83.5%増と倍近く増加した。愛媛以外のナンバーは平日で12.6%増、休日は4.6%減となった。地元(愛媛)車に大きな影響のあったことがうかがえる。(図表-3)

図表-3 無料化社会実験前後の観測台数(ナンバー登録地別)

ナンバー登録地		愛媛	愛媛以外	合計
平日	実験前	2,118	517	2,635
	実験中	4,202	582	4,784
	増減数	2,084	65	2,149
	増減率(%)	98.4	12.6	81.6
休日	実験前	4,023	1,066	5,089
	実験中	7,382	1,017	8,399
	増減数	3,359	49	3,310
	増減率(%)	83.5	4.6	65.0

(2)ナンバー調査結果(車種別)

無料化後の台数は、全車種で増加したが、特に軽自動車、貨物車の増加が著しく、両車種とも2倍以上となった。平日は軽自動車が154.6%増、貨物車が145.7%増、休日の軽自動車は139.3%増、貨物車が157.2%増で、普通車と比べて、移動範囲が狭いと思われる軽自動車や貨物車(ダンプトラックなど)の増加が目立った。(図表-4)

図表-4 無料化社会実験前後の観測台数(車種別)

車種		軽自動車	普通車	バス	貨物車	バイク	合計
平日	実験前	416	1,844	48	326	1	2,635
	実験中	1,059	2,868	55	801	1	4,784
	増減数	643	1,024	7	475	0	2,149
	増減率(%)	154.6	55.5	14.6	145.7	0.0	81.6
休日	実験前	871	3,987	66	138	27	5,089
	実験中	2,084	5,853	80	355	27	8,399
	増減数	1,213	1,866	14	217	0	3,310
	増減率(%)	139.3	46.8	21.2	157.2	0.0	65.0

まとめ

今回の高速道路無料化社会実験は、全体の交通量底上げにつながっている。そして、ナンバープレート調査では、愛媛ナンバーのシェアや増加率、さらには軽自動車や貨物車の増加が顕著であったことから、愛媛、とりわけ南予の経済や産業に大きなインパクトを与えたと思われる。具体的には、無料化による輸送・移動コスト削減や高速道路走行による時間短縮、定時性の向上などのさまざまな面に及び、観光や消費、運輸業界などに多くのメリットをもたらしたと思われる。一方、南予から中予などへの消費流出や、国道56号の交通量減少による沿線の商店・飲食店で売上減などの影響が出ているとも考えられる。今後さらに、利用者や関係者へのヒアリングなどを行い、無料化社会実験による変化の実態を明らかにしたい。